

神山中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習に取り組む態度の育成
- ②生徒が表現できる授業の創造

【各校の取組状況の把握について】

学力向上検討委員会を適宜開催し、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識・技能の習得については一定の成果が見られる。家庭学習にもまじめに取り組む、出された学習課題も概ねやり遂げられている。 ●積み上げが十分でないため、知識が定着していない生徒が少なくない。	・自主的に家庭学習に取り組む、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・新しく習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面でも活用することができる。	・研究授業を行い、わかる授業の創造をめざす。 ・家庭学習のてびきを利用した説明や『やり遂げタイム』を通して家庭学習の仕方を習得させる。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』を支援する。 ・『日々学』で知識・技能の確実な積み上げをめざす		・定期的に研究授業を実施し、ICTを活用したわかりやすい授業の展開に努めた。 ・感染症対応のため『やり遂げタイム』は各学年ごとの実施となった。家庭学習の仕方はてびきを利用して説明したり、生徒の記述したものを掲示する方法で紹介したりできた。	・個に応じた課題が提供できるよう、『日々学』のシステム構築に努める。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』が活性化するように支援する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習では積極的に発言する生徒が多い。意見や考えを導こうと努力する。 ●様々な文章や資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめ論理的に説明することを苦手とする生徒が多い。	・根拠を明らかにして、自分の考えを書いたり説明したりできる。 ・情報を収集し、問題を解決する力を身に付けられる。	・授業のめあてを明確にし、ふり返りをさせる。 ・ICTを活用して適切な情報を得たり、自分の考えをまとめたりできるような力をつけさせる。 ・根拠を明らかにして発言する機会を意図的に設ける。定期テストで記述式問題を増やす。 ・10分間作文に取り組みせ、発表会を開催する。 ・合同学習で積極的に発言させる。 ・読書記録やビブリオバトルを活用して読書を習慣化させる。		・めあての明示とふり返りはできている。 ・ICTを活用して得た情報から自分の考えをまとめる活動を増やすことはできた。 ・感染症対策をしながらも工夫して作文発表会、ビブリオバトル、合同学習を実施することができた。	・根拠を明らかにして自分の考えを書かせる機会を意識して取り入れる。 ・思考力をともなう意見を表現する力をつける方策を検討する。 ・引き続き読書の習慣化に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業にはまじめに取り組むことができる。ノーチャイム制だが、授業開始時には学習できる環境が整っている。 ●課題を仕上げることで満足して、自分に合った学習を計画的に進められない生徒もいる。	・学習内容や学習態度のふり返りを進んで行い、その成果や課題を明らかにして、自主的に学習に取り組むことができる。	・あゆみに家庭学習時間を記録させる。 ・自主学習ノートを全教員で指導するとともに、コンテストを行う。 ・テスト前計画表を活用し、各自の学習について成果や課題を明らかにさせる。 ・テスト反省を確実にさせる。また、意見交流をして、より自分に合った学習法を確立させる。		・あゆみへの学習時間記録は十分にはできていない。 ・自主学習ノートの全職員指導とコンテスト実施はできた。 ・前回のテストの反省点をもとに、テスト前計画表を活用してテスト対策に取り組むことができた。	・学校全体でテストのあり方を再考し、単元末テストを導入し、テストを分散することで、その教科の学習に集中できる環境をつくる。 ・自主学習ノートの取り組みが教科の評価につながる工夫を行う。

令和3年度 学力向上ロードマップ

